

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

昭和52年に農業改良普及員(今は普及指導員と改称)という、もっぱら農家の技術支援をする仕事につきました。その後畜産、水稻、野菜、果樹と多くの分野を担当してきて、自分の技術力がどれほどのものか、常に不安を感じていました。

受験を決意したのは、懇意にしてくださった当時拓殖大学北海道短大(深川市)教授の故相馬 暁さんから「これからは技術士の資格が大事だよ」と勧められたのがきっかけです。合格するまで3年かかりましたが、私にはとても有意義な時間でした。

特に2次試験の経験論文を書くにあたって、自分が過去に取り組んだ仕事をじっくり振り返って、その背景、課題、取り組みの経過、改善点と残された課題を整理することができました。試験勉強をとおして技術者としての仕事の進め方を再確認することができました。また技術者倫理を勉強することにより、技術者の責任の重さを痛感しました。それによって私が今心がけているのは、「知ったかぶりをしない」「分からないことは、正直に分からないと言う」ことです。「こんな事も知らないの?」と思われるのは一時の恥として、真摯に学ぶことが技術士の勤めであり、資質向上の近道だと思っています。

これからも農家の皆さんと一緒に考えながら技術改善を行い、成果をともに喜び合える、そんな充実した仕事ができるよう心がけていきたいと思っています。

杉浦 輝陽 (すぎうら てるあき)

● 農業部門(農業及び蚕糸)

勤務先

北海道上川総合振興局
上川農業改良普及センター



→ 次号は、椋本正寿さん(農業部門)

私は、北海道旭川市でこの世に生まれ、今年で50歳になります。大学を卒業と同時に札建工業株式会社に入社し、土木工事一筋で今までやってきました。現在は、当社土木部の部長として部門のマネジメントに携わる傍ら、受注工事の施工計画策定及び施工方法検討等の技術的総括を担当しています。工事の受注、利益の確保に厳しさを増す近年、工事の施工に関しては在来工法に対する創意工夫や、新技術・新工法を積極的に取り入れるなど、作業の安全性・効率性・経済性を考慮した計画立案に努めています。

私が技術士の資格試験と向き合い始めたのは、平成10年に技術士第一次試験を受験したのがきっかけでした。当時は現場所長として道内各地を転々としていた中で、いろいろなゼネコン会社やコンサル会社の技術士の方々と触れ合い、専門知識に裏付けられた応用的発想能力や資料の作成・コミュニケーション能力の高さに感銘を受け、是非私も技術者としてこの人達と肩を並べたいと思ったのが動機だったように思います。

今は技術士の名称を用い、企業内技術士として業務を行っていますが、その当時の自分が感じた事は、技術士だから技術的能力が高かったのではなく、技術士になるために、そして資格取得後も継続的に研鑽した結果が個人の能力を向上させたのであろうという事です。これはまさに技術士法の責務で謳われている資質向上のことに他なりません。今後は自分が他の技術者に感銘を与えることができるよう自己を継続研鑽するとともに、後進の指導を通じ、会社ひいては社会に貢献したいと考えています。

中田 裕則 (なかた ひろのり)

● 建設(施工計画) / 総合技術監理部門

勤務先

札建工業 株式会社



→ 次号は、帯野克文さん(建設部門)